

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2470500188
法人名	社会福祉法人 洗心福祉会
事業所名	認知症対応型グループホーム シルバーケア豊壽園
所在地 (電話番号)	津市高茶屋小森町字瓦ヶ野4159番地 (電話) 059-235-5660
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 19 年 9 月 26 日(水)

【情報提供票より】 (H19年9月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	500 円	昼食 650 円
	夕食	750 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 1,850円		

(4) 利用者の概要(9 月 4 日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	86 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	高茶屋クリニック 三井整形外科 紀平歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体法人は地域総合ケアセンターとして、医療・保育・福祉などの多くの施設を県下に展開しているシルバーケア豊壽園本部敷地内に位置し、保育所・診療所・公園などが隣接している恵まれた環境の事業所である。建物は玄関・共有スペース・居室ともに木の温もりがあり、広い廊下の天窓や大きな窓からの光は穏やかで安心して暮らせる雰囲気を持っている。地域福祉に永年、熱意をもって取り組んでいる代表者と経験豊富な管理者のもと全職員『明るく・楽しく・心豊かに』の理念を実践されている。家族も参加のホームパーティーや、隣接している「はなこま保育園児」との交流・機能訓練士の訪問など楽しみごとも多く利用者の生きがいになっている。特養や診療所などが併設されていることで重度化した際や異常があった場合でも迅速かつ多岐にわたって対応でき、利用者や家族・職員にも安心感がある優しい事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者・全職員ともに評価の意義・目的をよく理解して課題の検討・改善に努めている。(外部評価後の職員会議で改善項目について話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。)
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・全職員ともに調査の意義・目的をよく理解して自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催しており、近状報告の他に毎回大きなテーマを一つ設けて検討を重ね、今後のサービス提供に役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	3ヶ月に1回ホームパーティーを開催し、家族にはどんなことでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	管理者・職員ともに地域の一員としてのつきあいの大切さを理解しており、地元の人々と交流することに努めている。(保育所やクリニックが隣接しているので地域の方々との交流も頻繁に行われている。施設内の公園での夏祭りなどの行事に地元の方々の参加がある。

2. 評価報告書

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『明るく・楽しく・仲良く』を事業所の理念としてかかげ、毎朝のミーティング時に話し合い、具体的なイメージを持って地域密着型サービスの意義を職員全員で確認している。	○	地域総合ケアセンター(介護保険サービス・医療・児童福祉など)を設立され永年、熱意をもって地域福祉に取り組まれている代表者・管理者のもと、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係強化を具体的なイメージを持って職員全員で「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」の理念をつくり、事業所の目指す姿や大切にしていることを短い文章にして、利用者や家族・地域とも共有されることが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員共に日々のサービスの提供場面で事業所の理念を大切にしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	管理者・職員ともに地域の一員としてのつきあいの大切さを理解しており、地元の人々と交流することに努めている。(保育所やクリニックが隣接しているので地域の方々との交流も頻繁に行われている。施設内の公園での夏祭りなどの行事に地元の方々の参加がある。)	○	今後、敬老会などの地域の行事に積極的に参加する予定がある。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・全職員ともに評価の意義・目的をよく理解して課題の検討・改善に努めている。(外部評価直後の職員会議で改善項目について話し合い、具体的な改善に取り組んでいる。)		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、近況報告の他に毎回大きなテーマを一つ設けて検討を重ね、今後のサービス提供に役立てている。	○	自治会や老人会・消防署・警察など地域の幅広い立場の人の参加する会議とし、地域の理解と支援を得る貴重な機会としてとらえ、事業所のサービス向上にいかしてもらえることが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	母体法人(シルバーケア豊寿園)として行政と連絡を密にとっており常に情報を得るようにしてサービスの質の向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に法人の広報誌(洗心)を送付して利用者の暮らしぶりを伝えている。健康状態に変化のある時には電話などで報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	3ヶ月に1回ホームパーティーを開催し、家族にはどんなことでも言ってもらえる雰囲気作りをしている。出された意見や要望はサービスの質の向上に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は少ないが、職員の交代がある場合は利用者へのダメージが極力すくなくなるように配慮した人選をしている。馴染みの関係も大切にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は研修の必要性は十分認識しており、職員は法人内外の研修に順番に参加している。外部研修に参加の場合は研修報告書を作成し、職員の全体の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、月1回の研修会に参加し交流の機会をもっている。母体法人が他地域で運営するグループホーム真珠荘との交流もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	母体法人が同じ敷地内で運営する老健やケアハウスからの利用者もある。本人にはできるだけ時間をかけて雰囲気慣れてもらい、他の利用者や職員と顔見知りになってもらうことに努めている。お試し期間も工夫しながら支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	大正琴・短歌・俳句の得意な方々が職員に教えながら楽しんでいる。職員・利用者ともに喜怒哀楽の共有や利用者自身の意見を出せる場面作りの支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に生活歴を聞き取り、利用者一人ひとりにできるだけ寄り添い意志の疎通を図りながら日々の表情や行動から本人の思いや意向の把握に努めている。また利用者一人ひとりその人らしくを念頭に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ホームパーティー時に本人・家族に提示して話し合い、担当職員とともに意見を出し合い作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化がなくても基本は3ヶ月に1度は見直しを行っているが、変化があれば随時見直し、定期的に評価を行い、家族の意見も聞きながら介護計画を更新している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同施設敷地内にデイサービスや特養・老健・クリニックなどがあり、馴染みの関係を大切にしながらか多機能性を活かすように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所に隣接している高茶屋クリニックと連携して日々の健康管理や急変時の対応に努めている。また利用者や家族の希望に応じて外部の病院への受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に『重度化等に係る指針』を提示して事業所の方針を説明している。事業所で出来ること出来ないことを常に話し合い特養や診療所を併設していることで、重度化して際や体調に異変があった場合でも迅速かつ多岐にわたった対応が出来る体制を確立している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全ての職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら接している。(接遇委員会もある。)また個人情報保護についても良く理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースを大切に、日々のその人らしい暮らしを支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや片付けなど一人ひとりの力を活かしながら職員と一緒にいき食事を楽しむ支援をしている。おやつ作りも利用者の楽しみとなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回、利用者一人ひとりの意向をたいせつにして、くつろいだ気分で入浴できるように支援している。(1番風呂を希望される方、ゆっくりと入浴を希望される方など柔軟に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の暮らしの中で一人ひとりにあった楽しみや役割を見つけて支援をしている。(大正琴・俳句・短歌・縫い物・調理や野菜づくりの得意な方は職員を生徒にして経験を発揮する場面を作っている。)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	施設内にある公園や知人訪問など希望に沿った外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や窓の鍵をかけないケアの実践に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所独自の防災訓練を月1回実施している。(母体法人の消防団もある。)直ぐ近くにある消防署立会いの訓練は法人全体で計画的に実施している。	○	火災だけではなく地震などの災害時の避難訓練は昼夜を問わず行き、地域との連携や協力体制の強化が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体重の増減を常にチェックし、栄養の偏りや水分不足にならないように支援している。(母体法人の特養の管理栄養士がカロリーと栄養バランスを点検している。)		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓のある明るい共有スペースには広い畳の間やすわり心地の良い椅子が置かれ、天窓のある廊下にも縁台が置かれており、利用者同士居心地良く過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者一人ひとりの使い慣れた物品を置き、居心地よく過ごせる工夫がある。家族などの面会時は居室で湯茶・菓子など個々の楽しみ方をしている。		